

2024 年度 入学者選抜試験 後期日程

人文学部法律経済学科

小論文問題冊子

注意事項

- (1) 机上には、問題冊子 1 部 (6 ページ)、解答用紙 1 部 (5 ページ)、下書き用紙 1 部 (5 ページ) が配布されています。問題冊子は、指示があるまで開いてはいけません。
- (2) 試験開始の合図があったら、解答用紙のすべてのページの所定の欄に受験番号を記入してください。
- (3) 解答は横書きとしてください。英数字を書く必要がある場合は、1 マスに 2 文字まで記入できます。
- (4) 問題冊子、下書き用紙は、各自持ち帰ってください。

以下に掲げる文章の筆者は、民衆が政府を支配する政治体制をデモクラシー型と定義し、民衆が政策決定そのものに関与する方式を「古典デモクラシー」、選挙で民衆に選ばれた政策決定者が政策を決定する方式を「現代デモクラシー」と呼び分けている。筆者によると、ある政治体制がデモクラシー型にあたるためには、一定の基準（デモクラシー基準）を満たすことが必要であり、その重要な一部が政治的自由の保障である。

このことを踏まえて次の文章を読み、問に答えなさい。

著作権の関係上、公表しない。

著作権の関係上，公表しない。

著作権の関係上，公表しない。

著作権の関係上，公表しない。

著作権の関係上、公表しない。

出典：空井護『デモクラシーの整理法』岩波新書（2020年）126～138頁より一部改変。

出題者注）レファレンダム：ここでは、国民投票や住民投票などを指す。

【問1】 課題文において筆者がいう「政治的自由（政治的な自由）」とは、「自由一般」とどのように区別されるのかを400字程度で説明しなさい。

【問2】 文中に引用されるバーリンは、政治的な意味の自由を「消極的自由」と「積極的自由」に分けて定義している。これを踏まえて、筆者の要約によるとバーリンは、消極的自由とデモクラシーは論理的には無関係と述べている。なぜバーリンは消極的自由とデモクラシーは論理的には無関係と述べるのかを、筆者の議論に即して400字以内で説明しなさい。

【問3】 筆者は、「リベラル・デモクラシー」という言葉はときに深刻な害のある冗語であるとしている。その理由を、消極的自由とデモクラシーとの関係についての筆

者の考えを踏まえた上で、なぜ「リベラル・デモクラシー」の用語が“冗語”であるのか、また、この言葉がどのように“害がある”のかを400字程度で説明しなさい。